

# 東京クリニック

## 医薬品情報

---

TEL 03-5287-5532

Web <http://www.tokyo-clinic.jp>

Mail [info@tokyo-clinic.jp](mailto:info@tokyo-clinic.jp)

\*\*2003年12月改訂(第3版)  
\*2003年 1月改訂

うつ病・うつ状態治療剤

劇薬 指定医薬品 要指示医薬品<sup>注1)</sup>

日本標準商品分類番号  
8 7 1 1 7 9

貯法：室温保存  
使用期限：表示の使用期限内に使用すること。  
(使用期限内であっても、開封後はなるべく速やかに使用すること。)

**アモキサン®カプセル10mg**  
**アモキサン®カプセル25mg**  
**アモキサン®カプセル50mg**

AMOXAN® CAPSULES  
アモキサピンカプセル

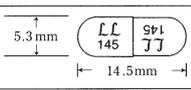
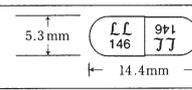
**アモキサン®細粒10%**  
AMOXAN® FINE GRANULES  
アモキサピン細粒

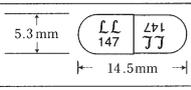
	10mg	25mg	50mg	細粒
承認番号	15500AMZ 00853	15500AMZ 00854	15500AMZ 00855	(62AM) 0207
薬価収載	1980年12月	1980年12月	1980年12月	1987年10月
販売開始	1981年 6月	1981年 6月	1981年 6月	1987年10月
再審査結果	1987年 9月	1987年 9月	1987年 9月	—

**【禁忌(次の患者には投与しないこと)】**

- 緑内障のある患者  
[抗コリン作用により緑内障を増悪させるおそれがある。]
- 三環系抗うつ剤に対し過敏症の患者
- 心筋梗塞の回復初期の患者  
[循環器系に影響を及ぼすことがあるので、心筋梗塞を増悪させるおそれがある。]
- モノアミン酸化酵素阻害剤を投与中の患者  
[発汗、不穏、全身痙攣、異常高熱、昏睡等があらわれることがある。「3.相互作用(1)」の項参照]
- テルフェナジン又はアステミゾールを投与中の患者  
[QT延長、心室性不整脈を起こすおそれがある。]

**【組成・性状】\*\***

販売名	アモキサンカプセル 10mg	アモキサンカプセル 25mg
成分・含量	アモキサピン 10mg (1カプセル中)	アモキサピン 25mg (1カプセル中)
** 添加物	乳糖、ステアリン酸マグネシウム、ラウリル硫酸ナトリウム、ゼラチン	
色・性状	淡赤褐色の硬カプセル剤	淡赤褐色と白色のツールの硬カプセル剤
外形・大きさ		
識別コード	LL145	LL146

販売名	アモキサンカプセル 50mg	アモキサン細粒 10%
成分・含量	アモキサピン 50mg (1カプセル中)	アモキサピン 100mg (1g中)
** 添加物	乳糖、ステアリン酸マグネシウム、ラウリル硫酸ナトリウム、ゼラチン	トウモロコシデンプン、乳糖、ヒドロキシプロピルセルロース、軽質無水ケイ酸
色・性状	白色の硬カプセル剤	微黄白色～淡黄白色の細粒剤
外形・大きさ		—
識別コード	LL147	—

**【効能・効果】**

うつ病・うつ状態

**【用法・用量】**

アモキサピンとして、1日25～75mgを1～数回に分割経口投与する。効果不十分と判断される場合には1日量150mg、症状が特に重篤な場合には1日300mgまで増量することもある。

**【使用上の注意】**

**1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)**

- 排尿困難又は眼内圧亢進等のある患者  
[抗コリン作用によりこれらの症状を増悪させるおそれがある。]
- 心不全・心筋梗塞・狭心症・不整脈(発作性頻拍・刺激伝導障害等)等の心疾患のある患者又は甲状腺機能亢進症の患者  
[循環器系に影響を及ぼすことがあるので、これらの症状を増悪させるおそれがある。]
- てんかん等の痙攣性疾患又はこれらの既往歴のある患者  
[痙攣を起こすことがある。]
- 躁うつ病患者 [躁転、自殺観念があらわれることがある。]
- 脳の器質障害又は精神分裂病の素因のある患者  
[精神症状が増悪されることがある。]
- 高齢者 [「5.高齢者への投与」の項参照]
- 小児 [小児に対する安全性は確立されていない(使用経験が少ない)。]

**2. 重要な基本的注意**

眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがあるので、本剤投与中の患者には、自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないよう注意すること。

**3. 相互作用**

**(1) 併用禁忌(併用しないこと)**

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
モノアミン酸化酵素(MAO)阻害剤	発汗、不穏、全身痙攣、異常高熱、昏睡等があらわれることがある。なお、MAO阻害剤の投与を受けた患者に本剤を投与する場合には、少なくとも2週間の間隔をおき、また、本剤からMAO阻害剤に切り替えるときには、2～3日間の間隔をおくことが望ましい。	MAO阻害剤は本剤の代謝を阻害する。また、本剤は活性アミンのシナプス内への取り込みを阻害して、受容体の感受性を増強する。

注1) 要指示医薬品：注意—医師等の処方せん・指示により使用すること。

(2) 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗コリン作働薬 塩酸トリヘキシフェニジル等	口渇、排尿困難・乏尿、眼内圧亢進、視調節障害、便秘、鼻閉等があらわれることがある。	相互に抗コリン作用が増強されるためと考えられている。
アドレナリン作働薬 エピネフリン、ノルエピネフリン等	心血管作用(高血圧等)を増強することがある。	本剤は交感神経末梢へのノルエピネフリン等の取り込みを抑制し、受容体部位へのエピネフリン作働性を上昇させ、作用を増強させる。
中枢神経抑制剤 バルビツール酸誘導体等	本剤の作用が増強されることがある。	相互に中枢神経抑制作用を増強すると考えられている。
降圧剤 グアネチジン	降圧剤の作用を減弱することがある。	三環系抗うつ剤はアドレナリン作働性ニューロンでのグアネチジンの取り込みを阻害すると考えられている。
シメチジン	本剤の作用が増強されることがある。	シメチジンにより本剤の代謝が阻害されると考えられている。
スルファメトキサゾール・トリメトプリム	本剤の作用が減弱されることがある。	機序は明らかでないが、本剤の代謝促進又は、作用部位での両剤の拮抗作用によるものと考えられている。
アルコール	中枢神経抑制作用が増強されることがある。	相互に中枢神経抑制作用を増強すると考えられている。

4. 副作用

アモキサカンカプセル、同細粒の副作用集計対象となった6,717例中、1,168例(17.39%)に臨床検査値異常を含む副作用が認められた。その主なものは口渇(5.61%)、便秘(4.63%)等の自律神経障害及びめまい(2.29%)、眠気(1.73%)等であった。  
[再審査終了時の集計<sup>1)</sup>]  
なお、本項には自発報告等副作用発現頻度が算出できない副作用報告を含む。

(1) 重大な副作用

1) 悪性症候群(Syndrome malin) (頻度不明)

無動緘黙、強度の筋強剛、嚥下困難、頻脈、血圧の変動、発汗等が発現し、それに引き続き発熱がみられる場合は、投与を中止し、体冷却、水分補給等の全身管理とともに適切な処置を行うこと。本症発症時には、白血球の増加や血清CK(CPK)の上昇がみられることが多く、また、ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下がみられることがある。  
なお、他の三環系抗うつ剤の投与中、高熱が持続し、意識障害、呼吸困難、循環虚脱、脱水症状、急性腎不全へと移行し、死亡した例が報告されている。

2) 痙攣、精神錯乱、幻覚、せん妄(いずれも0.1%未満)

痙攣、精神錯乱、幻覚、せん妄があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には減量又は休業等適切な処置を行うこと。

3) 無顆粒球症(頻度不明)

無顆粒球症、白血球減少等の血液障害があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行い、異常(前

駆症状として発熱、咽頭痛、インフルエンザ様症状等があらわれる場合もある。)が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

4) 麻痺性イレウス(頻度不明)

腸管麻痺(食欲不振、悪心、嘔吐、著しい便秘、腹部の膨満あるいは弛緩及び腸内容物のうっ滞等の症状)を来し、麻痺性イレウスに移行することがあるので、腸管麻痺があらわれた場合には投与を中止すること。なお、この悪心、嘔吐は、本剤の制吐作用により不顕性化することもあるので注意すること。

5) 遅発性ジスキネジア(頻度不明)

長期投与により、遅発性ジスキネジア(口周部等の不随意運動)があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2) 重大な副作用(類薬)

抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH)

類似化合物(アミトリプチリン)で、低ナトリウム血症、低浸透圧血症、尿中ナトリウム排泄量の増加、高張尿、痙攣、意識障害等を伴う抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH)があらわれることが報告されている。

(3) その他の副作用

以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。

	副作用の頻度			
	5%以上	0.1~5%未満	0.1%未満	頻度不明
循環器		頻脈、血圧低下、動悸		血圧上昇、不整脈、心ブロック、心発作
精神神経系 <sup>注2)</sup>		眠気、不眠、振戦等のパーキンソン症状、躁転、頭痛・頭重、焦躁・不安、構音障害、四肢の知覚異常、運動失調	アカシジア(静坐不能)等の錐体外路症状、耳鳴、知覚異常、興奮	
抗コリン作用 <sup>注3)</sup>	口渇	便秘、排尿困難、視調節障害	乏尿、鼻閉、眼内圧亢進	
過敏症 <sup>注4)</sup>		発疹、顔・舌部の浮腫	紅斑、痒痒	
肝臓 <sup>注5)</sup>		黄疸等の肝障害		
消化器		悪心、食欲不振、下痢、嘔吐	味覚異常、胃部不快感、口内不快感、口内炎、胃痛・腹痛	
内分泌系			月経異常	
その他		めまい、倦怠感、発汗、脱力感、発熱	性欲減退、頻尿、性欲亢進、顔面や身体の違和感、四肢冷感、頸痛	

注2) 減量又は休業等適切な処置を行うこと。

注3) 投与を中止すること。

注4) 投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

注5) 異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

## 5. 高齢者への投与

高齢者では、起立性低血圧、ふらつき、抗コリン作用による口渴、排尿困難、便秘、眼内圧亢進等があらわれやすいので、低用量から投与を開始するとともに、患者の状態を観察しながら、慎重に投与すること。

## 6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。  
[妊娠動物(マウス)の器官形成期に経口投与した実験(10、20、40mg/kg/日)では、40mg/kg/日群で口蓋裂の発生、死亡胎児の増加、胎児体重の減少が認められている。]
- (2) 授乳中の婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。  
[動物実験(ラット)で母乳中への移行がみられている。]

## 7. 適用上の注意

### 薬剤交付時(カプセル剤)

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)

## 8. その他の注意

動物実験(ラット)で、本剤により内分泌系に対する影響がみられ、雌性動物で、乳腺小葉-腺房の発達が起ることの報告がある。

## 【薬物動態】

### 1. 血中濃度<sup>2)</sup>

健常成人14例にアモキサピン細粒10%を0.5g又はアモキサピンカプセル25mgを2カプセル、1回経口投与したときのアモキサピン未変化体の血清中濃度は、投与1~1.5時間後に最高値(アモキサピン細粒 $46.7 \pm 16.4 \text{ ng/mL}$ 、アモキサピンカプセル $43.8 \pm 20.8 \text{ ng/mL}$ )に達し、24時間後にほとんど消失する。また、アモキサピンの体内主要代謝物8-ヒドロキシアモキサピンの血清中濃度は投与1.5~2.5時間後に最高値(アモキサピン細粒 $37.3 \pm 11.9 \text{ ng/mL}$ 、アモキサピンカプセル $33.0 \pm 11.7 \text{ ng/mL}$ )に達し、24時間後も比較的高い値を示す。

### 2. 代謝・排泄<sup>3)</sup>

健常成人26例にアモキサピンカプセル50mg、1カプセルを1回経口投与した実験では血中濃度は、投与1.46時間後に最高値( $34.8 \text{ ng/mL}$ )を示す。アモキサピンは体内において大部分が8-ヒドロキシアモキサピンに代謝され、アモキサピン及び8-ヒドロキシアモキサピンの血中半減期はそれぞれ約8時間及び30時間である。また、アモキサピン及びその代謝物は主として尿中ヘグルクロン酸抱合体として排泄され、尿中排泄率は48時間で43%である(米国)。

## 【臨床成績】

カプセル剤における、国内で実施されたうつ病・うつ状態患者3,177例を対象とする一般臨床試験及び市販後の調査における改善率(中等度改善以上)は70.1%(2,228例/3,177例)である。

[再審査終了時の集計<sup>4)</sup>]

細粒剤における、国内11施設で実施された、うつ病・うつ状態患者117例を対象とする一般臨床試験での改善率(中等度改善以上)は75.2%(88例/117例)である。

[承認時の集計<sup>4)</sup>]

## 【薬効薬理】

アモキサピンのうつ病・うつ状態に対する作用機序の一つとして、脳神経細胞への遊離カテコールアミンの再取り込みを阻害することにより、シナプスにおけるカテコールアミンの濃度を上昇させることが挙げられている。

### 1. セロトニン、ノルアドレナリンの神経終末顆粒への取り込み阻止作用

アモキサピンはラットの中脳、間脳から得た神経終末顆粒へのセロトニン、ノルアドレナリンの取り込みを阻害する(in vitro)<sup>5)</sup>

### 2. 脳内モノアミン(ドーパミン、ノルアドレナリン、セロトニン)に及ぼす作用

アモキサピンはマウスの脳内のドーパミン、ノルアドレナリンの含量を低下させるがセロトニンには影響がない(マウス、腹腔内投与)<sup>6)</sup>

### 3. 抗テトラベナジン作用

アモキサピンはテトラベナジンによる自発運動量の低下、眼瞼下垂を抑制する(マウス、腹腔内投与)<sup>7,8)</sup>

電気生理学的にはアモキサピンはテトラベナジンの作用を逆転又は遮断するが、イミプラミンは誘発電位の低下又はテトラベナジンの誘発電位低下作用を促進する(脊髄ネコ、静脈内投与)<sup>9)</sup>

### 4. 抗レセルピン作用

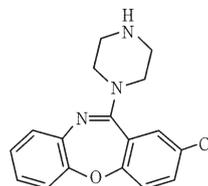
アモキサピンはレセルピンによる体温低下、眼瞼下垂を抑制する(マウス、腹腔内投与)<sup>7,8)</sup>

## 【有効成分に関する理化学的知見】\*

一般名：アモキサピン(Amoxapine) [JAN]

\* 化学名：2-Chloro-11-(piperazin-1-yl)dibenz[b,f][1,4]oxazepine

\* 構造式：



分子式：C<sub>17</sub>H<sub>16</sub>ClN<sub>3</sub>O

\* 分子量：313.78

融 点：178~182℃

\* 性 状：本品は白色～淡黄白色の結晶又は結晶性の粉末である。本品は酢酸(100)に溶けやすく、エタノール(95)又はジエチルエーテルに溶けにくく、水にほとんど溶けない。

## 【包 装】

カプセル：〔PTP〕(10mg、25mg、50mg)  
100カプセル(10カプセル×10)、  
1,000カプセル(10カプセル×100)  
〔瓶〕(10mg、25mg、50mg)  
1,000カプセル(500カプセル×2)  
細 粒：〔瓶〕(10%)  
100g

## 【主要文献及び文献請求先】\*\*

### 〈主要文献〉

- 1) ワイス株式会社集計(副作用集計)
- 2) ワイス株式会社社内資料(アモキサシカプセル及び細粒の血清中濃度)
- 3) Kelly, R. G., et al. : Data on file, Lederle Laboratories, Pearl River, New York
- 4) ワイス株式会社集計(臨床成績集計)
- 5) Coupet, J., et al. : Data on file, Lederle Laboratories, Pearl River, New York
- 6) Rauh, C. E., et al. : Data on file, Lederle Laboratories, Pearl River, New York
- 7) 君島健次郎, 他 : 米子医学雑誌, 27(5・6):523(1976)
- 8) Chermat, R., et al. : Arzneimittel-Forsch, Drug Res., 29(1):814 (1979)
- 9) Critchett, D. J., et al. : Data on file, Lederle Laboratories, Pearl River, New York

### \*\*〈文献請求先〉

ワイス株式会社 メディカルコミュニケーショングループ  
〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目10番3号  
TEL 03-3561-8720